

<http://outdoor.geocities.jp/tokinosunomori/>

E-mail : tokinosunomori@yahoo.co.jp

<連絡先>掛川市中宿 1 1 3 (TEL・FAX 0537-23-0412) 「森の駅 時ノ寿」(TEL 0537-28-0082)

別紙：1～3月活動予定表

<もくじ>

★ 年末の御挨拶 1

★ 行事案内 (詳細は別紙予定表をご覧ください。)

1月3日 「ホームページとフェイスブックがリニューアル！」

アクセスしてください。FBで「いいね」をクリックしてください。

1月4日 「初山で新年顔合わせ！」

日ごろ参加できない会員さんも、どうぞお気軽に来てください。

1月5日 「森のcafé・新年営業開始！」

薪ストーブがとても暖かです。山羊たちも心を癒してくれます。子ヤギ(♂)の名前は「空」(クウ)に決まりました。みなさんを待っています。

★ ブログで振り返る 2014 年

4月1日「やりがいを目指して第一歩」	2
5月26日「定期総会・新たな出発を決議」	3
6月4日「NPOの会員更新手続き」	4
7月8日「世田谷と時ノ寿が交流」	4
7月15日「山羊がNPOを抱擁する」	5
7月27日「森の集会所・本日営業開始」	6
8月18日「森のコンサート&ランチ大成功」	6
9月2日「県知事が時ノ寿へ」	8
9月3日「8周年記念日に新聞4紙に揃って掲載」	9
9月4日「森林保全を社会に広げる9年目がスタート」	9
10月6日「時ノ寿は被害甚大」	10
10月8日「昔取った杵柄はNPO法人の原動力」	11
10月26日「82000本目の植樹を終える」	11
11月26日「掛川で森づくり全国サミット」	12
11月29日「サミット始まる」	12
11月30日「シンポジウム・植樹も大成功」	13
12月7日「ネイチャーツアー大成功」	14

＜年末の御挨拶＞

42年間のサラリーマン生活に区切りをし、生涯を通してふるさとの森林に感謝の気持ちで微力を傾けて行こうと、スタートした2014年でした。息の長い活動ですので、焦らずに、ゆったり歩いていくことを元旦に誓ったのですが、なぜか人生61年のうちで最も短く感じた1年でした。

本年も一年通じ、異常気象に伴う自然災害が頻発し、多くの尊い人命が奪われました。国際的にも、国内においても、地球温暖化の危機的状況の中で今後の方向性が議論され、また大事な選択もされましたが、その結果は経済至上主義を最優先するものでした。

時ノ寿の森クラブは、未来の子どもたちに豊かな森林を引き継ぐことを使命とし、「山と海をつなげる森づくり」を現場第一主義で進めてまいりました。加えて本年は、森林保全活動を未来に持続させるために、この運動を地域から県内外に広げて行こうと、外に向けて積極的に発信した1年でした。夏には、人々を森に誘う「時ノ寿ビジターセンター・森の集会所」をオープンし、秋には川勝平太静岡県知事が来訪してくださり、会員と親しく意見を交わしていただきました。11月末、掛川市と共催した「森づくりを未来につなげる全国サミット&シンポジウム in 掛川」では、森づくりを実践する北海道から鹿児島県まで14人の首長様のほか全国の仲間をお迎えし、森づくりの大切さを社会へ大きく発信することができました。

お陰様で、時ノ寿の森クラブに対しましては、社会から幅広く、多種多様な皆様より御支援・御支持を頂戴することができ、12月末現在の会員数は191名（6団体を含む）に達しました。森づくりを未来に持続していくためには、社会からの御支援が欠かせませんので、現場の森林保全活動を基本としつつ、この活動を社会に発信することも努力してまいり所存です。会員の皆様におきましても、時ノ寿の森クラブ営業マンのような気持ちになりまして、支援の輪を広げていただければ幸いです。

本年このように大きな成果を収められましたのも、会員の皆様の御指導・御支援の賜にほかなりません。1年の終わりにあたり、心から感謝を申し上げますとともに、新年も森林環境保全に微力を捧げてまいることをお約束して、御挨拶とさせていただきます。

＜ブログで振り返る 2014年＞

やりがいを目指して第一歩 2014/4/1(火)

定年後の生活が始まりました。初日は、従来のリズムで起床しましたが、妻とゆったり朝食を共にしたあとも、時間はゆったり流れていきました。こんな日がなかった訳でもありませんが、気持ちの持ち方によって時間の流れる速さが異なるものだと感じました。

今年1月3日のブログに、自分の定年後の生き方を綴ったことを思い出し、その日のブログを開いて見ました。「・・・。肩に力を入れることなく、身の丈を知り、社会への貢献を半分、家族への感謝を半分、かつ自分の想いには素直にやりたいことを生涯で行けたらいいな、と思っています。」と、ありました。



先日も、職場の職員互助会紙に寄稿した退職者の感想でも書きましたが、60歳を生きて来て、これからの生き方は、良きにつけ悪きにつけ、変えることはできそうにないので、退職後は十数年前に自分の生涯の仕事として見つけた「ふるさとの森林再生活動」を続けてまいりたいと思っています。

どんなに文明が発達しても、人間が人間らしく生きていくためには、見せ掛けではない本物の自然が必要だと思いますので、生涯をかけて郷土の森林を豊かに保全していきたいと思っています。

広大な森林を相手にしていると、ついつい自分に残された時間を気にしながら、成果を急いでしまいがちでしょうが、そこは私にとって、これから一番留意しなければいけないことだと思います。初日の今日、時間がゆったりと流れているその感覚を忘れないように。

定期総会・新たな出発を決議！ 2014/5/26(月)

NPO法人時ノ寿の森クラブは、森林の荒廃は社会や人心の荒廃につながると信じて、未来の子どもたちのために森を再生しようと思う人々が一人、また一人と参加してくれて今日まで8年間、「山と海をつなぐ森づくり」に取り組んできました。

昨日は、平成26年度の定期総会に会員や来賓のほか新規入会希望者など総勢38名が集まってくださり、盛大に開催することができました。総会会場は、一昨年から時ノ寿の森に建築中のクラブハウス&ビジターセンターでしたが、間もなく完成する施設にあふれるほど多くの会員や関係者をお迎えすることができました。森林保全活動を未来に持続するための新たな出発点と位置付けて開催した平成26年度定期総会でしたので、これほどうれしいことはありません。合わせて、これからの活動への使命と責任を痛感いたしました。



多くのNPO法人が社会課題を解決するために頑張っていますが、法人が目的を達成するために活動を持続していくためには、関係者の努力や情熱が大切ですが、組織の財政基

盤が健全であることが基本です。企業活動として成り立つことが困難な森林産業での活動ですので、NPO法人が並大抵なことではありませんが、時ノ寿の森クラブにとっても、このことが当面の最重要課題であると思っています。

昨日の総会で満場一致で決議していただいた平成26年度の事業計画及び活動予算書に基づき、選任された新役員によって活動を発展させてまいりますので、クラブ員の皆様をはじめ社会の多くの皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

NPOの会員更新手続 2014/6/4(水)

NPO法人時ノ寿の森クラブの会員は、定款により法での正会員を「運営会員」、賛助会員を「サポーター会員」と規定し、運営会員とは「法人の目的に賛同し、法人の運営に携わるために入会した個人・団体」、サポーター会員とは「法人の目的に賛同し、法人の事業を支援するために入会した個人・団体」として定義しています。

そして、それらの会員として入会する場合には、年会費として運営会員は3000円を、サポーター会員は1000円を納入していただくことになっていましたが、先日の定期総会において、従来の方針を変更しました。変更した内容は、サポーター会員の年会費を無くして、法人に対して寄付をした人をサポーター会員とすることとしました。なお、運営会員の年会費は変更ありません。

このように変更した理由は、サポーター会員は元来、法人の活動に賛同して支援する意思をもった人として入会していますので、入会について年会費が必要とするのではなく、支援のパフォーマンスとして「寄付」とさせていただきます。したがって、従来よりサポーター会員として、当法人を支援していただいていた方につきましては、従来納入していただいていた年会費を寄付として納入いただきたいと思います。

このような内容にしましたのは、法律が定める「認定NPO法人」になるためです。認定NPO法人になる理由は、法人の目的としている社会的活動（使命）を広く社会の寄付により、その活動に必要な事業費を賄うことで経済的自立を図り、その社会的活動を将来に持続していくことです。法人にとって、大変大きな課題であり、責任が伴っていくこととなりますが、当法人の目的を達成するために必要なことであるとし、このことを定期総会で議決しました。

以上のことを踏まえて、先週29日に第1回理事会を開催し、今年度の会員更新手続をすることを決めました。現在、手続きの準備をしております。1～2週間のうちには郵便で書類をお送りできると思います。現在会員の方、また新たに当法人に賛同いただける方は、寄付をしていただきましてサポーター会員に名を連ねていただければ幸いです。

世田谷と時ノ寿が交流 2014/7/8(火)

時ノ寿の森クラブの本年度主要事業の一つ「都市と山村をつなぐ交流ツアー」の第1号は、東京都世田谷区で書道教室をやられている書道家山本玲葵さんが、生徒さんたち5人を連れて参加してくれました。大人3人、子供3人の一行は、雨の降る時ノ寿の森に到着すると、第一印象は、すがすがしい気温、風、香り、目に映る緑の心地良さだったと、終了時の感想では6人のみなさん皆が述べてくれました。体験プログラムでは、1泊2日の深夜にまでかけてのすべての時間を目いっぱい使い、伝統的木造工法の見学、炭焼きボランティア、チェーンソーによる間伐作業体験、お茶摘み、釜入り茶づくり、間伐材使用の額づくりなどをこなしましたが、この感想だけで、今回の交流ツアーの成功を表してくれています。そして、参加者みなさんの写真に写るすべての笑顔が、証明してくれています。

ツアーの詳細は、随時紹介していきましょう。とり急ぎ、写真を紹介しながら、参加者の皆様へのお礼とします。



山羊がNPOを抱擁する 2014/7/15(火)

この5日間は、寝ても覚めても山羊を中心に時間が過ぎていました。認定NPO法人をめざす理事長が、少女趣味でもあるまいが、何を考えているのだと、会員からは叱られるかもしれません。

わがNPO法人は、2006年に森林再生活動を進める任意団体として発足し、2010年にNPO法人を設立し、さらに社会的信頼を高めて森林再生活動を社会全体の参加によって未来に持続させていくため、本年度は認定NPO法人を目指した大きな挑戦の年です。

そして、そのような大事な年に、山村と人々をつなげるための交流施設「森の集会所」の営業開始という、大きなチャレンジがあります。それだけでも、脆弱なNPO法人にとっては一大事であるのに、それに加えてわざわざ新規に山羊を飼うとは、生き物を飼うということの大変さを知らない少女趣味の理事長が乱心したと思われるのが、適当かもしれません。



どんな事業も組織の運営も、理事長一人ではどうにもなりません。この8年間の活動は、理事長の考えや目標を会員の皆さんが真摯に理解してくださり、その考え方を支持してくれて、目標の達成に向かって会員の力が結集したからにはほかなりません。そのことは、一度も忘れたことはありません。

地方の山間地のNPO法人が、活動内容はどんなものであっても認定NPO法人を取るなど、土台無理だと思われるのは否定しません。しかし、それほど困難な目標であっても、現代社会の中でNPO法人が生き残って未来に持続するためには、認定NPO法人になることが不可欠だと確信します。

だからこそ、貧者の家畜と言われ、かつて廃村の時ノ寿の森でも飼われていた「山羊」に、人より先に廃村に帰ってきてもらいました。かつては、山村の食生活を山羊が支えたのですが、今回は食文化の恵みのほかに、新しく出発するNPO法人時ノ寿の森クラブを山羊の包容力でしっかりと会員の皆さんを抱擁してもらいたいと思っています。

平成26年度の時ノ寿の森クラブにとって、認定NPO法人への新たな会員制度、山村と人を結ぶ交流施設の営業開始、廃村への山羊帰還、この3つの事業は、どれが欠けても目標は達成できないと思っています。時ノ寿の森クラブを未来につなげるための「3本の矢」です。会員のみなさん、この3つの事業を推進するために、時ノ寿の森に集まってきてください。来週は、第3日曜日ですので、大勢の皆さんの応援をお願いします。

「森の集会所」本日営業開始 2014/7/27(日)

猛暑は、時ノ寿の森も朝から例外ではありませんでしたが、明るく本来の豊かさを取り戻した時ノ寿の森に整備した「森の集会所」は、昨日、掛川市長様をはじめ静岡県など行政関係者や地元倉真地域の各種団体の代表者、また40年前まで集落があった大沢地区の住民の人たち、そして当NPO法人の会員など約80人が参加し、盛大な落成式が開催できました。御出席いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

当クラブは、2006年9月に発足し、廃村とともに荒廃が進んでいた山間の森林再生に取り組んできましたが、その成果があって、今では時ノ寿の森は誰もが心地よさを感じてもらえる豊かな森に蘇りました。このように森を豊かな状態に維持することこそ、未来の子どもたちのために私たちがしなければならない大事なことではないでしょうか。

今日から営業を開始する「森の集会所」で、お茶やコーヒーを飲みながら、また読書を親しみながら、さらには森を散策したり、「森のまきば」のヤギたちとふれあい、日常では感じることのできない「森の恵み」や「森の静寂」、多様な森の大切さなどを体感していただければうれしいです。



森の集会所表札を除幕



来賓から祝辞と激励をいただく

森の集会所の営業日は、土・日・月曜日の午前10時から午後3時です。火曜日は休業ですが、水・木・金曜日は、貸切利用が可能ですので、御夫婦でもご友人同士でも、また数人の仲間でもどうぞご利用ください。

森のコンサート&ランチ大成功 2014/8/18(月)

現代社会の目まぐるしい移ろいの中から、しばし離れていたどなた様も、今日から元の定位置に復帰です。今朝は、モードの切り替えに少々時間を要すでしょうが、その切り替えが、ご自身の心身を「実」の状態にして健全に機能させる健康維持の秘訣ですから、ど

うぞ早めに切り替えてください。

昨日は、わがNPO法人では、ゆく夏を惜しみながらの恒例の「森の夏祭り」を実施しました。今年は、会員の皆様にも又一般市民の方々にも、営業開始間もない森の集会所の「cafe」と「図書室」をゆっくりと味わってもらおう「森のランチ」、また森の駅では、素敵な音楽を森から流れてくる風に乗せて聴いてもらう粋な「森のコンサート」という演出でした。会員、一般合わせて50人を超える幼児から大人までの参加者たちは、まさに森の恵みが演出する「食」と「芸術」のすばらしさを味わっていただいたと思います。

出演いただいたのは、それぞれの地域で仕事をしながら、愛好する音楽を自らが楽しみ、多くの人々にも聴いてもらいたいとの思いで活動してる「掛川音楽倶楽部・The Wind Tail」(代表石神敦樹さん)で、掛川市内だけでなく名古屋、磐田、牧之原からも参加してくれた若人7人でした。代表の石神さんとは、5月ころ偶然に市役所でお会いし、たった一度の出会いだけで、私の想いを受け止めてくださり、昨日の素晴らしい森のコンサートが実現しました。



出演していただいた皆様が、ステージの後ろから流れてくる森からの風に音楽が乗っていく演出に感動してくれましたのは、とてもうれしかったですね。また、演奏終了後に森の駅で涼みながら、「森の恵みの中で聞いてもらえるコンサートは最高の企画です。季節の移ろいの中で定期的に演奏が出来たら、もっともっと多くの人々に森の良さも、音楽の良さも味わってもらえますね。」と話してくれました。

音楽の魅力の仕事の傍らで持ち続けている素敵な若人の皆様と出会い、森林を生涯通じて保全していきたいと思う私の心に希望が湧いてきました。素敵な森のコンサートが定期的に開催できたら・・・心がわくわくしてしてきました。

演奏してくださった皆さん、参加してくださった会員と一般のみなさん、森からもらった元気で、まだまだ続く残暑に負けないようにしてください。そして、郷里や観光地で英気を養って来られた全国の皆様、現代社会の大きな動きの中で自分自身を見失わないよう

にしてください。夏の思い出をいつも胸にしながら・・・。

県知事が時ノ寿へ 2014/9/3(水)

昨日まで雨模様であった時ノ寿の森でしたが、きょうは川勝県知事が時ノ寿の森へ来訪してくださるということで、天も味方をしてくれたように、朝から好天に恵まれました。

5月移動知事室で掛川市の海岸防災林再生事業を御視察いただいた際に、「私たち時ノ寿の森クラブが8年間活動してきた源流域から海岸域までの荒廃森林再生の取り組みについて話をさせていただき、そして荒廃していた源流域の森林が活動によって明るく蘇った様子を、ぜひ一度ご覧いただけたら幸いです。」と申し上げましたら、大変共感してくださり、本日、実現しました。

荒廃した故郷の山や川を再生させたいとの思いからスタートした私的な取り組みが、社会の多くの個人や団体、さらには行政の協力や支援をいただきながら発展してきて、今日では源流域の荒廃森林209haを間伐し、目の前の見事に再生している杉林を知事はご覧になり、大変喜んでくださり、かつ高い評価のお言葉をいただきました。

また、知事は、源流域に豊富に蓄積された木材資源の価値をとっても高く評価されており、さらにその利用については、県の公共施設建設にも積極的に取り入れられています。私たちの団体は、知事の考え方と同様に、地域の木材で家造ることを普及していますが、そのモデルハウスのような拠点施設を見ていただき、木の美しさ・地元職人の高い技術に感動してくれました。

時ノ寿の森クラブは、県土を守る森林保全と言う大事な活動をしているNPO法人ではあります。そして、その最前線であるということも間違っていないと思います。しかし、とんでもなく幅広い県政を指揮する超多忙な県知事が、最前線で1時間半もの時間を費やし、そこで活動する県民と意見を交わしていただけるなど、到底想像はできませんでした。



意見交換の中で、川勝知事は、「時ノ寿に来てみて感心しきりです」と、私たちの活動のスタンスや実績を評価してくれましたが、「この先導的な活動拠点を、県民が森林の大切さを知る拠点にしたい」とも語ってくださいました。そして、私たちの活動を継続していくためには、人材や資金などの多くの課題があることも事実で、その解決策について、いくつかの計画を提案させていただきましたが、知事の豊富な経験と学識から貴重な御助言や御指導をいただきました。新東名高速道路を活動に活用していくスタンスについては、大いに共感してくださり、どんなことでも不可能はなく、一番大切なことは本気のやる気であるということをおぼろげに気づかされました。

本日の知事の評価を誇りに思い、そして貴重な意見交換の中でいただいた多くの御助言やアイデアを常に胸に秘めながら、森林保全活動を時代にマッチさせていきたいと思いません。川勝知事、本日はありがとうございました。

8周年記念日に新聞4紙に揃って掲載 2014/9/3(水)

今日9月3日は、わが時ノ寿の森クラブが発足して満8年を迎える記念の日です。秋晴れのすがすがしい今朝の朝刊には、毎日、朝日、静岡、中日の4紙に揃って、昨日の川勝平太静岡県知事が時ノ寿の森クラブ活動拠点を視察され、知事が実際に今までの活動成果をご覧になり、またメンバーたちからの森林再生への積極的な計画を聞かれて、森づくりのモデルケースと高く評価いただいたことが掲載されました。

記念の日に、このような報道をしてくださいましたことは、この上ない喜びですが、それもひとえに、これまでの8年の間の活動に対して陰に日向に御支援、御協力をいただきましたクラブ会員をはじめ、その他多くの団体・個人の皆様のお陰であります。あらためて心から感謝を申し上げます。

この素晴らしい8年目の記念の日を素直に喜び、これまでの活動を振り返るとともに、さらに森林保全と言う「国民等しく参加できる国土の安全保障」がますます市内外に広がり、社会全体で推進されていくために、努力してまいりたいと、意を新たにしました。

「近き者喜ばば、遠き者来る」の心で、今を生きる一人ひとりが、ふるさとの森林保全活動に楽しく、かつ希望と夢を持ち、可能なことから第一歩を踏み出してくださることを、心から念願しています。

森林保全を社会に広げる9年目がスタート 2014/9/4(木)

2006年9月3日、19人の会員で発足した時ノ寿の森クラブですが、昨日で満8周年になりました。大沢集落（掛川市倉真）廃村跡を拠点とし、源流域の森林が保全されれば海までつながる川の流域すべての地域の安全安心が守られ、ひいては海の豊かさも守られるに違いないと信じ、地道な源流域の荒廃森林間伐を中心にしながらも、森林保全を社会全体に広げていくために広葉樹の植林や啓発活動など幅広く取り組んできました。

振り返れば、100年、200年の計とも言われる気が遠くなるような森林保全活動が、「未来の子どもたち豊かな森を引き継ごう」というキャッチフレーズのもとで8年間も続けていくことができ、形として間伐210ha、広葉樹植林81000本、都市と山村の交流施設建設など多くの実績を残すことができました。会員をはじめ、御支援をいただいた多くの皆様に感謝を申し上げます。

しかし、地球環境の危機的な状況や身の回りで起きる大水害を考えますと、国土を豊かに覆う森林の適切な保全の緊急性は、ますます高まっていると言えます。一方で、経済の活性化が望まれることも言を待つまでもありません。これから私たちは、この二つの重要

な社会的課題を表裏一体に捉えていかなければいけないと痛感します。

奇しくも、安倍改造内閣スタートの第一日目と一致し、本日より時ノ寿の森クラブは、9年目の活動がスタートします。今までのとおりの地道な現場第一主義の森林保全活動を推進するとともに、これからは、この重要な社会課題を広く社会全体の輪にしていくことに力を注いでいくこととします。

時ノ寿は被害甚大 2014/10/6(月)

台風18号は今朝8時ころ浜松市付近に上陸して関東に縦断しましたが、各地に大雨の被害をもたらしました。掛川市でも、午前5時から午前8時ころまでの降り方は尋常ではなく、市内全域に避難勧告が出ましたが、その後降雨が小康状態となり最悪の被害は免れました。あの降り方があと30分伸びていれば、市内を流れる逆川や倉真川は決壊して、中心市街地に甚大な被害が出たでしょう。

しかし、時ノ寿の森は大雨によって大きな被害が各所で発生しました。森の集会所は、敷地脇を流れる沢が氾濫して一部床下浸水を受け、集会所前の林道は谷川の増水で路肩をえぐり取られてしまいました。また、森の駅から伸びる時ノ寿林道の起点付近で大きな土砂災害があり、通行できない状態です。

明日は、クラブ員による復旧作業です。南海上には、次の台風が本土をうかがっているようで心配です。異常気象が相次ぐ今日この頃ですが、時ノ寿の森の災害が、この程度で済んだのは、森林再生活動の成果かもしれません。異常気象による大雨や強風は、今後規模の拡大が避けられないようですので、ますます森林の公益的機能が重要になってきます。



昔取った杵柄はNPO法人の原動力 2014/10/8(水)

「水を得た魚」のように、わがNPO法人の会員たちは、昔取った杵柄を災害復旧工事に生かしてくれました。平均寿命が大きく伸びた現代社会において、現役を退いた人たちのあらゆる分野における各種能力が、如何に社会活動に生かされるかは、これからの日本

のNPO活動にとって最重要課題ではないかと思いました。

昨日と今日において、会員たちの災害復旧工事への主体的な動きを見ていると、わがNPO会員は経験に基づいたすごい技能を保有していることが分かりました。Y会員は、今年7月に入会されたばかりですが、舗装工事についてはプロ中のプロで、今回の災害復旧応急工事にすごいパワーを投じてくれています。

今夜のニュースによれば、台風19号は中心気圧が900hpaと、今年最強の猛烈な勢力に発達しながら、週末三連休後半には日本列島へ襲来する模様です。たった1週間の間にこのような最大規模の台風に見舞われることが、気候変動の今日的課題であるならば、森林国ニッポンの森林保全への本気の取り組みは焦眉の急であると、政治家や行政マンにモノ申したい気持ちです。被災者の正直な気持ちです。

台風18号で受けた災害復旧は、待ったなしです。会員諸君、明日もよろしくお願ひします。



82000 本目の植樹を終える 2014/10/26(日)

薄曇りの秋の真ただちの日曜日、市内外から130人の皆様にお集まりいただき、わがNPO法人にとって延べ82000本となる「いのちの森づくり植樹」を実施しました。

過去、ほとんどが数千本単位で、中には1万本、2万本にも及ぶ植樹を実施してきた当NPOにとって、1000本の植樹祭はリラックスして実施できる規模でした。しかし、わがNPOのメンバーたちは、規模が小さければ、その分心を込めた植樹ができると、また植樹の基本を振り返りながら植樹を楽しく、かつ丁寧にできると考え、植樹リーダーにあたってくれました。そのお陰で、参加者の皆様も一本一本を心を込めて植えていただけたのではないかと思います。昨年開院した地域医療の拠点である総合病院ですので、生命力旺盛な森が敷地内にできるということは、病院にとって最高の環境だと思います。健康を崩して病院にいられた方が、病院の玄関をくぐる前に、敷地内の「いのちの森」から元気を

もらうことができ、そのうえで医師の受診をしてもたえば、どんな病気の治療であっても、その治療の効果は最高に発揮されるに違いありません。

本日植えた1000本の苗木も、あと4年くらい経てばきっと立派な森に成長してくれると思います。その間、雑草に負けないよう「目をかけて」やってください。



掛川で森づくり全国サミット 2014/11/26(水)

森づくりは、国民だれもが参加できる国土を守る安全保障であると思います。日本は、国土の7割が森林ですから、森林を守ることにしてもっと国を挙げてメッセージを発するべきではないかと思えます。

世界を見ても、日本のように緑豊かな国土を保っている国は、そうはないのです。この貴重な緑豊かな国土こそ、日本が世界に誇れる唯一無二の資源ではないでしょうか。先人たちが築いてきてくれた緑豊かな国土を、私たちは経済を考えると、また社会の仕組みを検討するとき、もっとも認識しなければいけないのではないかと思えます。

今週28・29日に開催される「森づくりを未来につなげる全国サミット&シンポジウム in 掛川」では、北海道・本州・四国・九州の自治体、企業、団体の皆様が集まり、森づくりを世界に先駆けて国民運動に発展させようと、熱く意見が交わされます。

来月2日には、経済の先行きが不透明な状況の中で、国の方向性を国民に問う衆議院総選挙が公示されます。このサミット&シンポジウムは、国民が安心安全に暮らせる国づくりとは何なのかを考える貴重な時間になると思います。多くの皆様に、ご来場いただきたいと願っています。

サミット始まる 2014/11/29(土)

「何を置いても、私たちが井の一番に考えなければいけないことは『命を守ること』です。」とは、横浜国立大学名誉教授・宮脇昭先生の基調講演の一節ですが、昨日と今日の二日間、「森づくりを未来につなげる全国サミット&シンポジウム」が掛川市で始まりました。

全国各地で「森づくり」を政策の一つに掲げて自治体経営をされている13人の首長が一堂に会し、各自治体の取り組みの発表が行われ、首長の皆さんの森づくりへの熱いメッセージを、300人近い一般参加者が聴講されました。厳しい地方財政において、首長として山積する住民ニーズの中で森づくりを政策として進めることについては、強いポリシーとリーダーシップがなければできないことだと思います。そんな状況を見抜かれた宮脇先生の基調講演は、いつよりも増して森づくりへの熱いメッセージが込められていました。

北海道上ノ国町、岩手県陸前高田市、宮城県岩沼市、愛知県東海市、和歌山県新宮市、高知県須崎市、大分県中津市、鹿児島県霧島市、県内の牧之原市、御前崎市、磐田市、湖

西市、掛川市の首長の皆様には、地方議会の他、衆議院解散総選挙を控えて超多忙の中を、掛川市へ御足労いただき、森づくりへの貴重な意思を届けてくださりありがとうございました。

素晴らしいサミットでありました。市民の命を守るために、かつ未来へ大事なDNAを引き継ぐために、全国の各自治体が、森づくりをテーマに末永く交流が続いて行くことを希望します。市民側も、これを契機に大いに交流を深めていきたいと思いをします。



シンポジウム・植樹も大成功 2014/11/30(日)

一昨日のサミットに引き続き、昨日は「森づくりを未来につなげる」ことをテーマに、全国の団体や企業が森づくりの活動事例を発表するなどシンポジウムが行われました。各団体からの発表に先立ち、福島県川内村遠藤雄幸村長から「村の宝である森林を守ることが村の復興につながる」と題した基調講演をしていただきました。遠藤村長は、人口3000人の村が原発事故によって存続の危機にあるという厳しい状況を、具体的数値や写真によって語る一方、このピンチをチャンスに捉えて村の再生にあたって行こうとする村長の熱き心に、会場の数百人の観客は感動しました。

事例発表では、主婦の傍ら先頭に立って15年間も植樹活動をしているNPO法人地球の緑を育てる会の石村章子理事長の発表、そして企業の工場緑化から始まった森づくりの活動が、今や社会の緑化活動に発展している横浜ゴム(株)新城工場長からの話には、会場内の参加者たちは強く感動されていました。

午後からの浜川新田海岸防災林の植樹活動は、午前中の激し雨も正午から止み、まさ宮脇昭先生の凄さに感動してしまいました。

シンポジウム&植樹事業に御参加いただいた多くの皆様には、心より感謝を申し上げます。今後ともよろしく願いたします。



ネイチャーツアー大成功 2014/12/7(日)

昨日と今日の二日間、真っ白に霜が降りた時ノ寿の森でしたが、市内外から「ネイチャーツアーin 時ノ寿の森」のスタッフ及び参加者たちが延べ70人近くも集まり、熱気に包まれていました。3歳の幼児から小学校5年生くらいまでの子どもたちのほか、その親御さんたち、そしてツアーに魅力を感じてくれた大人の方々でしたが、みなさん時ノ寿の森を訪ねたのは初めてでした。

間伐体験では、子どもたちもヘルメットをかぶり、間伐を手伝ってくれました。間伐材を使ったゴム銃工作、出来たゴム銃での射的大会も楽しそうでした。夕やみ迫る森でのたき火を囲んだ夕食は最高だったようです。自分たちで拾ってきた薪で炊いたお釜のご飯は格別でした。

二日目の自然観察会でも、参加した子どもたちは標高300mほどの尾根まで登り、樹齢100年以上の自然林の林は冒険心を駆り立てたようで、身近にこんな素敵な山があることに感動していました。参加者のお母さんは、「子どもを自然の中で育ててやりたいので、これからも時々連れて来たい」と言ってくれました。まさに、今回のツアーの目的が参加者の皆様に伝わってくれたと思いました。このような企画が四季折々に開催できるよう、検討したいと思いました。

これで、2014年の時ノ寿の森クラブのイベントは終了しました。時ノ寿の森のことが、社会に大きく発信できた1年でした。クラブ員をはじめ、御参加、御支援いただいた皆様に感謝いたします。



話を熱心に聞く子どもたち



間伐材ゴム銃キット組立に親子で熱中



標高300mの尾根筋にあるヒメシヤラ

